

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790300240		
法人名	有限会社 在宅介護サービスひまわり		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ひまわり宮城		
所在地	沖縄県うるま市与那城宮城122番地2		
自己評価作成日	令和4年2月21日	評価結果市町村受理日	令和4年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4790300240-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和4年 3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中、掃除や食器洗い、洗濯物たたみなどを行ってもらい、日々の役割を持った生活が送れるように支援しています。機能訓練に力を入れており、平行棒内歩行、メドマー、施術台などの機材を使用しての機能訓練も行っています。
 施設の隣にはコミュニティセンターがあり、学童も併設されています。現在は行えていませんが、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたところに、子供たちとの交流、地域の方々との交流を多く持てるようになると思います。また、庭には広い芝生が広がっていますので、日常的な活動として眺めのいい景色をみながら散歩を行っています。普段から体操などを行って身体機能の維持を図り、楽しみのある生活が送れるよう支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は本島とは橋でつながっている離島で、島の中心部の高台に立地し、敷地内には地域の防災コミュニティー施設が併設している。防災コミュニティー施設は学童の子どもたちも利用している為、季節の行事や日頃からも交流ができています。今年度開設された新しい事業所で、建物は市が管理し、法人が運営している。その為、市との連携は密に取れており、緊急ショートステイの受け入れ先にもなっており、日頃からも相談や連携が取れる関係ができています。また、施設の設備については職員からの意見で、脱衣所の手すりの設置や備蓄用の冷凍庫の購入、利用者に合わせた形態の食事が提供できるようにミキサーの購入や利用者が快適に過ごせるようなクッションの購入など、職員の意見も反映した運営をしている。広い敷地という良好な立地条件もあり、日常的に屋外への散歩も兼ねながら歩行訓練ができ、法人内にははりハビリ専門職もいる為、事業所内の施術台でメドマーを実施したり機能訓練にも力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をタイムカードの横に張り出すなどして、共有を図っている。会議においても、理念に基づいたサービスを行うことを職員と確認している。	法人の理念を基に、管理者が事業所独自の理念を作成し、職員会議で理念について話し合い見直す機会を持っている。理念にある”関わる人が「ほっとするよね。」と幸せを感じられる”ような支援の実践に努め、職員は利用者と同じ空間で、家に居る時のように居心地良く過ごせるように利用者の声を聞きながら日々のケアをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のなか、地域との交流はほとんど持っていない。	敷地内に「防災コミュニティー宮城」が併設されており、日頃から児童館の子どもたちが集まる場所にもなっている。今年度のハロウィンの行事には子どもたちが事業所を訪れたり、日常的な散歩で挨拶を交わすなど交流の機会は多い。2つの区の自治会長が運営推進会議にも参加し、地域の事について意見交換ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まったく行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会の中でアドバイスを受けて実践につなげられるように努めている。	2ヶ月に1回、利用者・家族・市担当者・知見者・地域代表として2つの区の自治会長が交互に参加して運営推進会議を開催しており、コロナ禍のため、状況を見て書面で開催する事もある。自治会長からは地域性で蛇が出た時の対処法としてハブ撃退スプレー購入の提案など地域特有の内容もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際や、必要に応じて電話や面談などで市担当の方と相談する機会は持っている。	本事業所は市が建てた建物を法人が運営している為、事業所の設備などの相談や、緊急ショートステイ部屋の設置もあり要請があればショートステイの受け入れを行うなど日頃から連携が取れるようになっている。市の担当者が運営推進会議にも参加しており、事業所の運営について適宜報告ができています。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会等を行い、身体拘束をしないケアの実線につなげている。	運営推進会議の開催日と同日に運営推進会議の構成員で、身体拘束適正化委員会を開催している。職員は年2回の事業所の研修で身体拘束について学んでおり、日々のケアの中でも外に出たがる利用者に対して制止する事なく屋外を散歩したりドライブに連れ出すなど身体拘束をしないケアに努めている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、虐待防止につなげられるように努めている。	年1回、身体拘束の研修とともに虐待についてもレジュメの読み合わせなどの研修がされている。管理者は職員の疲労やストレスに注意しながら状況を確認し、職員の声かけやケア方法で気づいた時にその都度ケア方法についてアドバイスしたり、落ち着いた利用者がいれば管理者が利用者をドライブに連れ出すなど職員への負担が大きくなるように気にかけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会は持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が利用前に本人、ご家族と面談を行い、契約等の説明を十分に行い、納得したうえで契約締結するように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者や家族の参加もあり、また、その都度声掛けし、利用者やご家族から意見等を聞き出すようにしている。運営などに反映させた事例はなし。	利用者からは日頃のケアの中でその都度、要望を聞いている。言葉で意思を伝えられない利用者に対しても、表情や行動から意向を汲み取るようにしている。家族からの意向は面会時などに聞く事が多く、歩かせてほしいとの要望に対して、利用者の意向も確認して歩行訓練や屋外の散歩を実施している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に事業所内の会議を開催し、また、毎日のミーティングの中で職員からの意見を聞き出し、運営に反映させることができている。	毎月1回、30分程度の各課会議を開催し管理者と職員で業務内容や分担、時間配分について話し合っている。参加できない職員には事前にレジュメを渡して意見を求めている。各課会議以外でも毎朝のミーティングで職員同士の意見を出し合う機会を持っている。職員からの意見により、更衣室の手すり設置や備蓄の冷蔵庫、ミキサーなどの購入をしている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で定期的にアンケートを取り、職場環境の改善を図る等の活動を行っている。	法人本部が管理して職員は健康診断を年1~2回受けている。職員に対するストレスチェックも実施しており、年次有給休暇の取得もされている。本事業所は今年度開設したが、法人内の異動で配属された職員が、介護支援専門員資格を取得しており職員の向上心がみられる。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会を開催し、知識、技術向上の機会を作っている。外部研修についてははまだ派遣等できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は持っていない。管理者が他の施設の管理者と電話などで意見交換を行っている程度。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に必ず管理者が利用者と面談し、本人が困っていること、不安や要望などを聞き出すように努めている。また、入居してからも安心する声掛けや対応等、職員同士で情報共有して信頼関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に必ず管理者が利用者家族と面談し、家族の困っていること、不安や要望などを聞き出すように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に必ず管理者が利用者とその家族と面談を実施。グループホーム入居以外のサービス利用についても説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食器を洗う際に一緒に洗ってもらったり、おやつを一緒に作ってもらったり、洗濯ものを畳んでもらったり、掃除を行ってもらったりと、職員と協力して日々の生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に利用者の日々の様子を伝えて、情報共有に努めている。また、週に1回、自宅で過ごす時間を設けて、家族も利用者本人と過ごすことで、施設職員と家族とが一緒になって利用者を支援するといった事例がある。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会や外出の機会が十分に持てていない。上記のように、週に1回自宅へ戻って過ごせるように支援を行っている。また、Youtubeで地元の風景を流して、利用者の皆さまに見てもらっている。	月1回程度は利用者の友人である地域の人を訪ねてくることがある。コロナ禍でこれまで生活していた場所に出かける事ができない場合はYouTubeを活用して地元の風景をテレビで流している。職員の送迎で週1回2時間程度、自宅で家族と過ごす利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性をみて席を配置したり、利用者同士で、コミュニケーションがスムーズにとれるように難聴の利用者に対して言い直しをするなど職員が間に入ってサポートを行い、談話や交流が持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了した方がいません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを行う際に本人やご家族より聞き取りを行って、意向の把握に努めています。	入居前に自宅や病院を訪問してアセスメントを実施し、利用者の思いを聞き取っている。「転びたくない」との意向に沿って、日常的な歩行を訓練として介護計画に反映し、歩行訓練を行うことで下肢筋力低下を予防している。「ケアチェック表」を用いて細かい内容でアセスメントがされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記同様、アセスメントを行う際に本人やご家族より聞き取りを行って把握に努めています。また、入居後も談話を交えながら生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記同様、アセスメントを行う際に本人やご家族より聞き取りを行って把握に努めています。また、入居中の状況を職員同士で情報共有を行い、把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティングの中などで利用者についてのモニタリングや支援方法を職員同士で話し合う機会は持っている。コロナ禍もあり、本人、家族、職員が一堂に会して話し合う機会は持っていない。	コロナ禍でその場に集まったの担当者会議は開催できていないが、計画作成時には利用者の意向は日々のケアの中で、家族の意向は電話や面会時に確認して介護計画に反映している。長期目標は12ヶ月、短期目標は6ヶ月で作成され、モニタリングは毎月実施されている。計画作成者が作成した計画書は職員ケア会議時に職員に声かけをして周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りノート等に気づいたことやその日あった出来事や様子を記入し、情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	まだ柔軟な対応はできていない。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域資源を活用するといった状態にないため、現在のところ、地域資源の把握等もうっかり行っていない状況。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	もともと入居前のかかりつけ医にみて貰っている。病院受診時にはこちらでの様子が見えるように情報提供書を持たせて受診してもらっています。	入居後も、本人が今まで通院していたかかりつけ医や希望の病院へ受診している。病院受診の対応は家族となっている。事業所から主治医への本人の日頃の様子や変化を伝える情報提供書を作成し、病院受診に付添う家族へ預けている。受診後は、家族から服薬の変更等を確認している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置はない。訪問看護とのかかわりもまだ持っていません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際の情報共有について、病院関係者と連絡を取ってスムーズに行えるように努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期について、本人、家族と話し合った事例はありません。	看取りに関する指針やマニュアル、同意書等が整備されていない。契約時に利用者や家族に対して終末期についての説明がされていない。事業所として重度化や終末期に向けた方針が明確にされておらず、職員との方針の共有や勉強会等も行われていない。	看取りに関する指針やマニュアル等を整備することで、事業所としての方針を明確にし、利用者や家族への説明と職員間で共有することが望まれる。
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての訓練はまだ行えていません。業務の中でその都度緊急時の対応について話す機会を持っています。	事故やヒヤリハット発生時に、毎朝のミーティングで職員間で情報共有し、再発防止に努めている。手順書は準備されているが、マニュアルはこれから整備することが必要である。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	コロナ禍のため訓練はまだ行えていない。その都度会議やミーティングなどで感染症予防に対する対応を確認しています。	昼夜を想定した年2回の避難訓練の実施が無い。マニュアルも整備されおらず、訓練計画等も作成されていない。自動火災通報設備や消火器等の設備は整っている。備蓄も1週間分確保されている。避難経路や避難場所など職員間で共有されていない。感染症に関するマニュアルは確認できた。	早急なマニュアルと災害時の計画書を整備し、避難訓練を実施が必要であり、職員間で避難経路や避難場所の共有が望まれる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックの勉強会を行うなどして、利用者に対して否定的な声掛けをしないように努めている。	本人の残存機能の維持のため、歩行訓練や本人ができることは職員が見守りで支援している。個人情報保護の方針や利用目的など、本人や家族に説明を行い同意をもらっている。全職員入職時と異動時に、個人情報についての説明を受けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に聞いてから支援するように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の楽しみや生きがいを発見できるように努めている。本人の気持ちに共感できるように努め、本人のペースに併せて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつでも身だしなみを整えられるように洗面所にブラシを置いたり工夫している。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや洗い物などを一緒に行って、楽しむように支援している。	事業所では、主食と汁物を職員で調理し、主菜等については調理済み食品を温め、利用者ごとの食形態に対応する調理のみ行っている。おやつ作りでは、利用者からのリクエストメニューを取り入れ、コロナ対策をしながら職員も利用者と一緒に調理を楽しむ場づくりをしている。配膳やお皿洗いなど利用者も参加している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の状況を把握しながら、本人にあった食事形態で提供してる。また、水分提供もその都度状況を見ながら促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分で出来る範囲で行ってもらい、出来ていない部分を職員が支援している。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自分で行える方は、排泄状況の確認を行うように努めている。また、誘導が必要な場合は時間を確認しながら誘導を行い、排泄失敗を防ぐように支援している。	個別ファイルで排泄チェックを行い、一人ひとりに合わせた排泄パターンを把握している。排泄の訴えが少なくなっている利用者には職員が声掛けをしたり、日中はトイレでの排泄ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維の多いものを取り入れたり、おやつにヨーグルトなどを提供したり、集団体操などで便秘予防の体操を取り入れたりしながら便秘予防に努めている。水分もその都度促して、適切な量が取れるように支援している。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯などは個人の要望に添えていないが、支援を行い、清潔保持に努めている。また、拒否された際は時間をおいて声掛けするなどして、本人の希望に少しでも添えるようにしている。	入浴は週3回となっているが、本人の希望に応じて入浴時間や入浴日を臨機応変に対応している。脱衣所は、季節に合わせて温度調整ができるように冷暖房器具等も設置している。入浴後の着替えは、利用者と一緒に確認しながら、準備している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は無理なく活動へ参加してもらい、夜間によく眠れるように支援している。また、居室の環境整備に努め、安心して休めるように努めている。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を職員全員が確認できるようにファイルにつづり保管している。職員同士連携を取りながら健康観察に努めている。	服薬に関するマニュアルは確認できなかった。手順書は準備されているが、職員間での共有がされていない。利用者の服薬内容に変更があった時には、その都度ミーティングで情報共有し、服薬情報説明書をファイリングし、職員がいつでも確認できるようにしている。	漫然と服薬支援を続けるのではなく、安全な服薬支援のためマニュアルを作成し、職員間での共有が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものをたたんでもらったり、食器を洗ってもらったりと、役割を持って過ごせるように支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在外出はできていない。ドライブへ出たり施設の外周を散歩する程度。	コロナ禍の中で、事業所内で過ごすことも多くなったが、一人一人の気持ちに寄り添い、個別対応でのドライブや施設外周の散歩を行い、利用者の楽しみとなるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍ということもあり、外出して買い物をするなどの活動が行えていないため、お金を使う機会が持っていない。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は行えていないが、電話やZoomを使用した面会などができるように支援していく予定。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、ホールともに明るく開放的な雰囲気、過ごしやすくなっていると思う。季節感を感じさせる飾り付けに関しては、まだ行っていない。	共用スペースには、明るく清潔を感じ、利用者がくつろぐことができるソファが準備されている。本人にとって安心して落ち着ける場所づくりの工夫をしている。季節の飾りつけの作成を職員と利用者で取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性のいい利用者同士、同じ席に座るなどの配慮を行っている。また、ゆったりと座れる椅子や簡易ベッドを設置して、いつでも使えるようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた布団や枕、私物などを持ち込んでもらったり、写真を飾るなどして、本人が居心地のよい居室になるように配慮している。	自宅と同じような環境で過ごせるように、自宅ですべて使っていた馴染みの家具等を持参することができる。また、家具等の配置も利用者の導線に合わせて居心地よく過ごせるように取り組んでいる。新しく入居予定の方は、仏壇も持参する予定であり、先立たれた家族との関わりを持てることで、入居者が安らぎを感じて過ごせる支援をしている。	居室内に紙おむつ等が無造作に置かれているため、保管方法の工夫が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所がわかりやすいように大きく番号を張りだすなどして、自分でトイレへいけるように工夫している。脳トレに使う道具をセッティングし、自分で選んで行えるようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35 (16)	昼夜を想定した年2回の避難訓練の実施が無い。マニュアルも整備されおらず、訓練計画等も作成されていない。	避難訓練のマニュアルの整備、訓練計画を作成し、避難訓練を実施する。	訓練計画を作成し、夜間の対応も含めて年2回(6月、11月)に実施する。	12ヶ月
2	33 (14)	看取りに関する指針やマニュアル、同意書等が整備されていない。契約時に利用者や家族に対して終末期についての説明がされていない。	看取りに関する指針やマニュアル、同意書を整備する。	看取りに関する指針やマニュアル、同意書等を他の事業所や近隣の認知症対応型共同生活介護事業所などのものを参考にし、またアドバイスをいただき、作成する。	3ヶ月
3	47 (21)	服薬に関するマニュアルは確認できなかった。手順書は準備されているが、職員間での共有がされていない。	服薬に関するマニュアルを作成する。	服薬に関するマニュアルを他の事業所や近隣の認知症対応型共同生活介護事業所などのものを参考にし、またアドバイスをいただき、作成する。	3ヶ月
4	54 (24)	居室内に紙おむつ等が無造作に置かれているため、保管方法の工夫が望まれる。	居室内の整理整頓を行い、紙おむつ等の保管方法を考える。	職員で話し合いを持って、居室内の整理整頓について改善を行う。紙おむつ類については、倉庫内へ保管するようにする。	1ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。